



Aobayama Concert

第10回 青葉山コンサート プログラム

2019年4月19日（金）17:30-19:30（開場17:00）

東北大学 青葉山キャンパス 工学研究科 青葉記念会館

主催: 青葉山コンサート実行委員会、東北大学 総務企画部 社会連携推進課

後援: 東北大学 工学研究科・工学部、情報科学研究科

若葉萌ゆる美しい季節となりました。本日は第10回目の記念すべき青葉山コンサートにお越しいただきありがとうございます。東北大学機械系同窓会の御寄附により東日本大震災後の「こころの復興」をめざして青葉記念会館にピアノが設置され、本学職員と学生を主体にコンサートが開催されて参りました。本日は第10回コンサートを記念し、ピアニストの蔡 翰平さんがプログラムの後半で演奏を披露していただきますのでどうぞご期待ください。

私たちの年代では少数の音楽愛好家だけのものだった楽器演奏ですが、今の若い人たちの楽器演奏力はとても高く、我々の学生時代に比べるとわが国の音楽環境が格段に豊かになっていると感じております。

私は歳をとるにつれ若いころ親しんだ名曲の数々が言い知れぬ美しさで蘇ってくるのを覚え、還暦を過ぎてから再びピアノの練習をはじめました。しかしながら、人前で演奏するという経験を試みますと、これが予想以上にハードルの高いチャレンジであることがわかりました。それでも音楽を愛する気持ちだけで毎回参加させていただいております。

では、今宵しばしの間、皆様と一緒にこころ豊かな時空を体験することができれば幸いに存じます。最後までゆっくりとお楽しみください。

青葉山コンサート実行委員 井樋慶一

第1部 (17:30-) 一般

- | | | |
|---|--|--|
| 1 | 井樋慶一 (Pf)
情報科学研究科 教員 | ピアノソナタ第13番 変ロ長調 KV 333 第1楽章 アレグロ /
W. A. Mozart 作曲
4分の4拍子、ソナタ形式。モーツァルトのピアノソナタ最高傑作の一つで、1783年の夏、生まれ故郷のザルツブルク(これが生涯で最後の帰郷となる)からウィーンへの帰路で立ち寄ったリンツで着手されたということです。この時有名なハ長調の交響曲(第36番「リンツ」K.425)が作曲されています。 |
| 2 | 宮内清孝 (Gt)
情報科学研究科前期2年 | 12月の太陽 / R. Guerra 作曲
この曲は、キューバ出身であるレイ・ゲーラがギタリスト大萩康司のために書き下したものである。柔らかな陽射しを思わせる美しい旋律を中心に、太陽さらには自然が見せる様々な表情を感じさせる名曲。 |
| 3 | 工藤康大 (Pf)
工学部2年 | 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第23番 ロ長調 BWV868 /
J. S. Bach 作曲
即興曲 第1番 変イ長調 作品29 / F. Chopin 作曲
1曲目は、4声のかけ合いが美しく、温かく幸せな雰囲気にも包まれています。2曲目は、とても爽やかに聴きやすく、ハーモニーの移ろいやメロディーがとても美しいです。これからも自分の音楽を追究し、音楽のすばらしさを届けたいです。 |
| 4 | Duo Cellisten
村田 智 (Vc)
工学研究科教員
阿部玲子 (Pf)
賛助 | ロンド ト短調 作品94 / A. Dvořák 作曲
ドヴォルザークがこの作品を作曲したのは、ニューヨーク音楽院の院長としてアメリカに招かれる直前、友人のヴァイオリニスト、チェリストと国内をまわるさよなら演奏旅行をしたときでした。素朴で懐かしい感じのするボヘミア風の旋律の向こうに、馬車で田舎道を揺られてゆく三人の姿が目に浮かぶようです。(マーマー・ヨ) |

5	川又政征 (Gt) 工学研究科 教員	単純な練習曲 I, II, III, VII, VI / L. Brouwer 作曲 キューバの作曲家兼ギタリストであるレオ・ブローウェル(1939-)による現代音楽に挑戦してみます。武満徹作曲の有名なギター曲は晦渋すぎて手ができませんが、この練習曲ならば弾けそうです。野性的なリズムの練習曲 I と不協和音のアルペジオが美しい練習曲 VI がとくに気に入っています。
6	高奈美香 (歌) 賛助 高奈秀匡 (Pf) 流体科学研究所教員	愛の絆にありがとう* / 高橋時江 作詞、高奈秀匡 作曲 時が満ちると** / 高奈美香 作詞、高奈秀匡 作曲 *河北新報社の3.11 大震災復興支援企画として出版された詩集「ありがとうの詩」に掲載されている高橋時江さんの詩に曲をつけ、楽曲を提供させていただきました。 **この曲は自宅の小さな庭の移り変わりを見て、私たちの人生における四季にもあてはまると感じたときに詩が生まれました。
7	阿部玲子 (Pf) 賛助 中田俊彦 (Pf) 工学研究科教員	シシリエンヌ* / G. Fauré 作曲 軍隊行進曲** / F. Schubert 作曲 *シシリエンヌとは、イタリア語でシチリアーナを意味し、イタリアのシチリア島起源の舞曲。6/8 拍子の美しいメロディーと、半音を連ねる哀愁のフレーズが秘めた思いを訴えているようです。 **ファンファーレ風の前奏から始まり、終始軽快なリズムが耳に響く名曲。今回は、三曲の中でもっとも親しまれている第一番を演奏します。
8	齊藤 黎 (Gt) 農学研究科前期1年	メヌエット 作品 11 No. 6 / F. Sor 作曲 ガボット I & II BWV1012 / J S. Bach 作曲 F.ソルはクラシックギターのレパートリーにとって、最も重要な作曲家の1人です。この曲は、彼の作曲したメヌエットの中でもとても有名で人気の高い曲です。明るく古典的な品位をもった美しい曲です。続けて、無伴奏チェロ組曲第6番よりガボットを演奏致します。僕は民族音楽的な雰囲気をもつこのガボットが大好きです。両曲の魅力を最大限伝えられるよう精一杯演奏致します、よろしくお祈りします。
9	高田めぐみ (フラダンス) 工学研究科職員 中田俊彦 (Pf) 工学研究科教員	川の流れるように / 秋元 康 作詞、見岳 章 作曲 美空ひばりさんが歌われ、30 年を過ぎた今も愛され続けている名曲です。穏やかに、しかし確かに移りゆく時の流れを、また人生そのものを、川の流れるように…と喩えています。そんな様子をピアノ伴奏に合わせ、穏やかなフラで表現したいと思います。
10	星陵アンサンブル トロンボーンデュオ&ピアノ 匂坂康平 (Trb) 工学研究科前期2年 藤野春海 (Trb) 医学部医学科6年 足立幸太郎 (Pf) 医学部医学科4年	「春の呼ぶ声を聞く」より 風 / 高嶋圭子 作曲 この曲は、東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地に一日も早い復興を願った作品です。本当の意味での「春」が私たちに「被災地はもう元気になったよ。」と呼びかける声を早く聞きたい、そんな願いから作曲されました。「風」では、冷たく吹き寄せる風が、春の訪れと共に変化していく様子が描かれています。2本のトロンボーンとピアノによる、色彩豊かな「風」の描写をお楽しみください。
11	マンドリントリオ 郷愁 田原靖彦 (Mn) 工学研究科 OB 小林克弘 (Md) 経済学部 OB 川又政征 (Gt) 工学研究科教員	この空を飛べたら / 中島みゆき 作曲、小林克弘 編曲 明日 / A. Gagnon 作曲、小林克弘 編曲 ジブリ・コレクション / 久石 譲 作曲、小林克弘 編曲 マンドラ・テノールはマンドリンより1オクターブ低い音域の楽器です。マンドラまたはドラと略称され、マンドリン合奏では中音域を担当し、主旋律、対旋律、伴奏と幅広く活躍する頼もしい楽器です。本日はマンドリン(Mn)、マンドラ(Md)、ギター(Gt)の三重奏によるポピュラー音楽をお楽しみ下さい。

休憩

蔡 翰平 (さい かんぺい Kanpei Sai) Piano



宮城県仙台市生まれ。6歳よりピアノを始め、12歳より桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」仙台教室に入室。宮城県宮城第一高等学校を卒業後に渡欧し、2013年にベルギーのブリュッセル王立音楽院に留学。同音楽院のピアノ科学士課程を経て2018年にピアノ科修士課程を最優秀の成績で修了する。スペイン・セビリアでの東日本大震災追悼コンサート、日本調律師協会第4回東北新人演奏会、仙台や東京を中心としたジョイントリサイタルやソロリサイタルの開催など数多くの演奏会に出演。また第56回、第57回全東北ピアノコンクールそれぞれ東北放送奨励賞受賞、第16回チッタ・ディ・ロケッタ国際ピアノコンクール第2位、第11回セシリア国際音楽コンクール第3位、第5回イスキア国際ピアノコンクール第2位など、国内外のコンクールで多数受賞。これまでにピアノを徳本美智子、庄司美知子、菅野潤、菊地洋子、ヨハン・シュミットの各氏に師事。

即興曲 第2番 嬰へ長調 作品 36 / F. Chopin 作曲

ポーランドの作曲家、フレデリック・ショパン(1810-1849)による作品。彼の作曲した4つの即興曲の中で最も規模の大きな作品である。流動的な第1番に比べると、全体的に静かで穏やかな曲想を持っている。冒頭、低音部での瞑想的なゆったりとした旋律が歌われ、これに乗って平穩で牧歌的な旋律が奏でられる。和音を主体とした主調によるシンコペーションの経過句を経て次第に短くも力強く雄大な曲想に入り、大胆な転調によって冒頭部分の再現部繋がる。そして右手の細かい音符による長く技巧的なコーダを挟み、再びシンコペーションによる経過句が回想され、力強い和音で終結する。ショパンの他の即興曲に比べ、演奏される機会こそ少ないが6分ほどの短い中に様々な要素が散りばめられた充実した1曲と言える。

ピアノソナタ 第5番 作品 53 / A. Scriabin 作曲

ロシアの作曲家、アレクサンドル・スクリャービン(1872-1915)による作品。1906年のアメリカでの演奏旅行中に着想を得、その翌年にわずか1週間ほどで書き上げたと言われている。スクリャービンは全部で10曲のピアノソナタを発表しているが、第1番から第4番に見られたロマン派的な作風に対し、この第5番は後期のスクリャービンの作品に見られる神秘和音や超絶技巧が随所に用いられた独特な作風となっている。またこれ以降の彼のソナタは全て単一楽章かつ調性感に乏しい(もしくはほぼ無調)となっており、スクリャービンのピアノソナタの作風が変化する過渡期にある作品と言える。冒頭、右手の激しいトリルと左手の減5度の怪しい響きが蠢き、そこから飛翔するかのごとく急速な上昇音階による序奏から始まる。神秘的な導入部を経て軽快で躍動感のある第1主題、特徴的な下降跳躍が見られる第2主題、緩やかで陶酔感漂う第3主題がそれぞれ個性を主張しながら現れ、コーダでは連打される和音の上で導入部の主題が高らかに奏でられ、冒頭の上昇音階が調性記号を異にしながらも全く同じ音で再現されて締めくくられる。

「愛の絆にありがとう」

高橋時江 作詞
高奈秀匡 作曲

大きな手 小さな手から
両手いっぱい暖かな
溢れる愛をありがとう
溢れる愛をありがとう
諦めないで 今が始まり
忘れない踏み出す一歩を
踏み出す一歩を ありがとう

嘆かない うつむかないで
生かされているこの命

幸せの道、遠いけど
溢れる愛をありがとう
歩くむこうに 希望のあかり
忘れない頑張る力
頑張る力 ありがとう

生きてゆく 明日を信じて
ひとりひとりに心から
愛の絆をありがとう
愛の絆をありがとう
またたく星に祈りをささげ
忘れない全ての人に
全ての人にありがとう
愛の絆に ありがとう

「時が満ちると」

高奈美香 作詞
高奈秀匡 作曲

春の訪れを聞き 小さな部屋の中で
柔らかな命が目覚め
新しい世界へと手を伸ばす
空の光を目指し 両手広げ伸びてゆく
涼しげな木陰を作り
鳥たちも羽を休ませている
神様の手で大切に育てられている
時が満ちると
枝の先には豊かな実がなる

雨の訪れを聞き 小さな部屋の中で
柔らかな命が動き
新しい世界へと手を伸ばす
大地の声にこえ 両手広げ降りてゆく
降り注ぐ恵みと共に
さらに深くまで根づかせてゆく
神様の手で大切に育てられている
時が満ちると
枝の先には豊かな実がなる

新しい命与え 人々潤し続ける

「川の流れるように」

秋元 康 作詞
見岳 章 作曲

知らず知らず 歩いて来た
細く長いこの道
振り返れば 遥か遠く 故郷が見える
でこぼこ道や 曲がりくねった道
地図さえない それもまた人生
ああ川の流れるように
ゆるやかに いくつも時代は過ぎて
ああ川の流れるように
とめどなく 空が黄昏に 染まるだけ

生きることは 旅すること
終わりのない この道
愛する人 そばに連れて 夢探しながら
雨に降られて めかるんだ道でも
いつかはまた 晴れる日が来るから
ああ川の流れるように
おだやかに この身をまかせていたい
ああ川の流れるように
移り行く季節 雪どけを待ちながら

ああ川の流れるように
おだやかに この身をまかせていたい
ああ川の流れるように
いつまでも 青いせせらぎを聞きながら

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後5年
を経た2016年3月に心の復興のために機械系同
窓会が寄贈したものです。

(ピアノ演奏可能時間：平日 9:30-19:30)

協力：工学部事務部 総務課、施設管理室

青葉山コンサート実行委員会

村田 智、 中田 俊彦、桑野 博喜
川又 政征、井樋 慶一、佐藤 達也
中村 肇、 中山 貴史、田原 靖彦

青葉山コンサートホームページ

www.bio.is.tohoku.ac.jp/~aobayama/

シンボルマーク・ロゴタイプデザイン 笹川 瑛貴

プログラムデザイン・編集 川又 政征

2019. 4. 19

